

テラモーターズの電動バイクをお買い上げいただきありがとうございます。
安全に留意し快適なバイクライフをお楽しみ下さい。

お車の引渡しについて

- ★ お買い上げになりましたなら、この取扱説明書を必ずお読みください。
- お車の正しい取り扱い方法
- 点検・整備について
- 保証内容と保証期間

運転免許について

- ★ 電動バイクを一般公道で運転するには、運転免許が必要です。ご自身の免許で運転できるか確認してください。
- ★ この電動バイクは、第一種原動機付自転車です。
- ★ この電動バイクの乗車定員は、運転者のみの1人です。

取扱説明書について

- ★ この取扱説明書には、電動バイクの取り扱い方法、安全な運転の方法、簡単な点検の方法などについて説明して有ります。
- ★ 車の取り扱い方法を十分にご存じの方も、電動バイク独自の装備や取扱いが有りますので、運転する前に必ずこの取扱説明書をお読み下さい。
- ★ 電動バイクを譲られる場合は必ず、この取扱説明書をお渡し下さい。
- ★ 電動バイクの仕様、その他の変更により、この取扱説明書の内容と実車が一致しない場合が有ります。ご了承下さい。
- ★ 取扱説明書は常時大切に保管してください。

尚、不明な点が有りましたなら、テラモーターズ株式会社またはお買い上げになりましたテラモーターズ取扱店まで、お問合せ下さいます様 お願い申し上げます。

【安全運転のために】

心のゆとりと正しい服装が安全運転の決め手です。

焦らずにゆとりを持って、道路交通法を守り落ち着いた運転を心がけましょう。

● 安全運転は正しい服装から

- ・ヘルメットはSまたはSG、JIS マークのある二輪用を必ず着用してください。
ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもを締めてください。頭にしっかりと合っ
て圧迫感のないものが最適です。
- ・グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが
適しています。
- ・ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを
使用してください。
- ・運転する服装は保護性の高い服で、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出
が少ない長そで・長ズボンを着用してください。疲労を少なくし、万一の
転倒時には身体を保護します。
ズボンのすそや袖口の広い服は、運転操作の邪魔になり、思わぬ事故の原因
となる可能性があるため、避けてください。
- ・靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。

警告！！

ヘルメットを正しくかぶっていないと万一の事故の際、死亡または重症に
いたる可能性が高くなります。

運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

● 日常点検、定期点検を必ず実施してください。

事故や故障を防ぐため、法令で定められた一日一回ご使用前に行う日常点検と、法令で定められ
た6カ月、12か月ごとに行う定期点検は必ず実施してください。

● 車の異常

次のような場合は、車が故障している恐れがあるので、そのままにせず、販売店で点検・整備を
受けてください。

- ・異音・異臭や異常な振動があるとき。

● 荷物はしっかり固定する

荷物を積むと、積まない時に比べてハンドルの感覚が少し変わりますので、注意が
必要です。積み過ぎると、ハンドルがふられ運転を誤ることが有りますので、
積み過ぎに注意してください。

- ・ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作が出来なくなる場合がありますので、物を置かないで下さい。
- ・ヘッドライトレンズの前を荷物等で遮らないようにしてください。過熱によりレンズが溶けたり、荷物等まで損傷する場合があります。
- ・石や鉄片など、硬くて重い物を入れたまま走行しないで下さい、積載重量以内でもトランク本体や車体が損傷する場合があります。

- ・荷物は指定の場所以外には積まないようにしてください。カバー等が破損することがあります

荷物の積載は下記重量までです。

フロントボックス： 1.0K g

シート下トランク： 7.0K g

リアキャリア： 3.0K g (リアボックス含む)

- 両手はハンドル、両足はステップボード (マット)
運転するときは両手でハンドルを握り、両足をステップボード (マット) にのせてください。
- 押して移動するときはメインスイッチをオフにする
車から降りて押して移動するときはメインスイッチをオフにしてください。
- 乗車定員は1名
運転者以外に人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。
- 法定速度は30 km/h
原動付自転車の法定最高速度は30 km/h です。法定速度を守って走行しましょう。
- 急激なハンドル操作や片手運転はしない
急激なハンドル操作や片手運転は、横滑りや転倒の原因となります。絶対にしないでください。
- 走行中の携帯電話の使用はしない
使用の際は安全な場所に停止してから携帯電話を使用してください。
- 急激なスロットルの開閉操作はしない
スタンドをかけた状態で、スロットルを回さないでください。
故障の原因となります。
- むやみに部品の取り外しはしない

むやみに部品の取り外しはしないでください。事故や故障の原因となることがあります。

●違法改造はしない

車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることは勿論、お客様の安全を脅かしたり、他の迷惑となりますのでやめましょう。

※このような改造に起因する故障は、保証修理等受けられません。

●自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。必ず加入してください。また、保険の期限切れにも注意してください。

●ナンバープレートを必ず装着

本車両は、第一種原付自転車です。公道を走行するには、ナンバープレートが必要です。

●周囲の人への思いやり

・交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。

・周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。

歩行者や自転車のそばを通る時は、安全な距離を保つか徐行してください。

●駐車

・盗難防止の為、車から離れるときには必ずハンドルロックをかけ、

メインスイッチキーを抜いてください。メインスイッチキーは必ずお持ち下さい。

・水平でしっかりした地面の場所に駐車してください。

・交通のジャマにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。

・やむを得ず傾斜地や砂利等を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟らかい所等に

駐車せざるを得ないときには、車の転倒・動き出しの無いように、

安全処置に十分留意してください。

警告！！

インホイールモーターの回転中、および停止後しばらくの間は、インホイールモーターが熱くなっています。触れるとヤケドする恐れがありますので、注意してください。

●昼間のヘッドライトを下向きに

本車両は常時点灯仕様です。他の車両や歩行者に注意を促し、自分の存在を知らせるためです。電源を入れた状態では常にヘッドライトが点灯します。

対向車がまぶしくないように、ライトは下向きにしてください。

●環境への配慮

お車及び部品などの廃棄をする時

- ・ 地球環境を守る為に、使用済みのバッテリーやタイヤ等はむやみに捨てないようにしてください。これらの物を廃棄する場合、テラモーターズ取扱店にご相談下さい。また、将来お車を廃車する場合も同様です。お車の廃棄を希望するときには、お近くのテラモーターズ取扱店にご相談下さい。

【取り扱い方法】

● 各部の名称

ヘッドライト

バックミラー

シート（下部トランク）

テールライト&リアウインカー

後輪

前輪

メインスタンド



バックミラー



ウインカー

ヘッドライト

スロットルグリップ

スピードメーター

Hi&Low 切り替えスイッチ

ウインカースイッチ

ホーンスイッチ

リヤキャリア

後輪



バックミラー

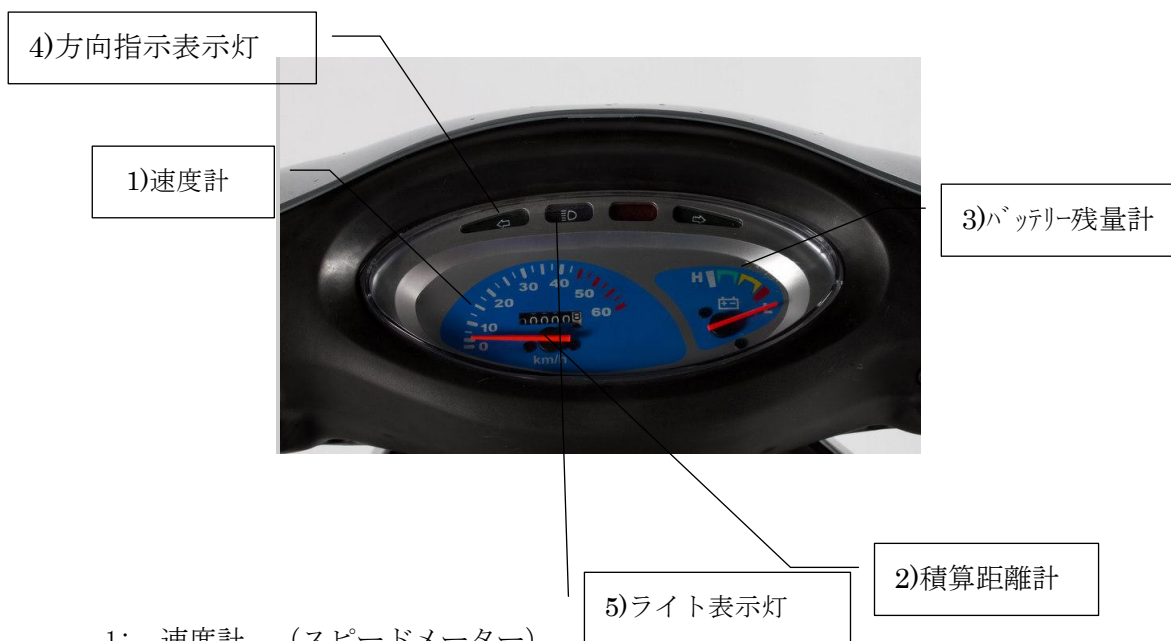
前照灯切替スイッチ

ホーンスイッチ

リヤウインカーランプ

ストップ & テールライト

● メーターパネル



- 1: 速度計 (スピードメーター)
走行中の速度を示します。**原動機付自転車の法定速度は 30Km/h**です。 速度を守り安全走行してください。
- 2: 積算距離計 (オドメーター)
走行した総距離を Km の単位で示します。
右端の白地に黒数字は 100m の単位です。
- 3: バッテリー残量計 (右側メーター)
バッテリーの電圧残量を示します。
H(満充電を示す) L (低充電を示す)
走行中、負荷がかかっていない状態での表示がバッテリーの電圧の残量となります。
L 側に近づいたなら早めに充電をしてください。
- 4: 方向指示器表示灯
方向指示器の操作により左折または右折を点滅で知らせます。
- 5: ライト表示灯

● キーの取扱い

- ・キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、十分に注意してください。
- ・キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- ・1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- ・キーを2本とも紛失または破損したときは販売店にご相談ください。

注意！！

金属製のキーホルダーをつけると、車体を傷つける恐れがあります。



● メインスイッチ

・電源スイッチ

メインスイッチキーを差込み「LOCK」 - 「OFF」 - 「ON」の方向へ回します。

- ・「ON」：電源が入り走行出来ます。ヘッドランプが点灯します。
- ・「OFF」：電源が切れます。
- ・「LOCK」：ハンドルを左に切り、キーを押しながら回すとハンドルロックされます。

警告！！

- ・走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動停止し、事故につながる恐れがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。
- ・盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

● ハンドルロック

ハンドルロックは駐車時などにおける盗難予防機構です。

▼ハンドルロックの仕方

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押しこみ、そのまま LOCK まで回します。

3. ハンドルを軽く左右に動かして、ロックを確認します。
4. キーを抜きます。

警告！！

- ・ 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- ・ 平坦な場所に駐車してください。やむを得ず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動きだしのないようにしてください。
- ・ 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

▼解除の仕方

- ・ キーを LOCK の位置で押し込み、そのまま OFF まで回します。

- * 標準としてメインスイッチキーは2本付いていますので、1本はスペアキーとして保管して下さい。

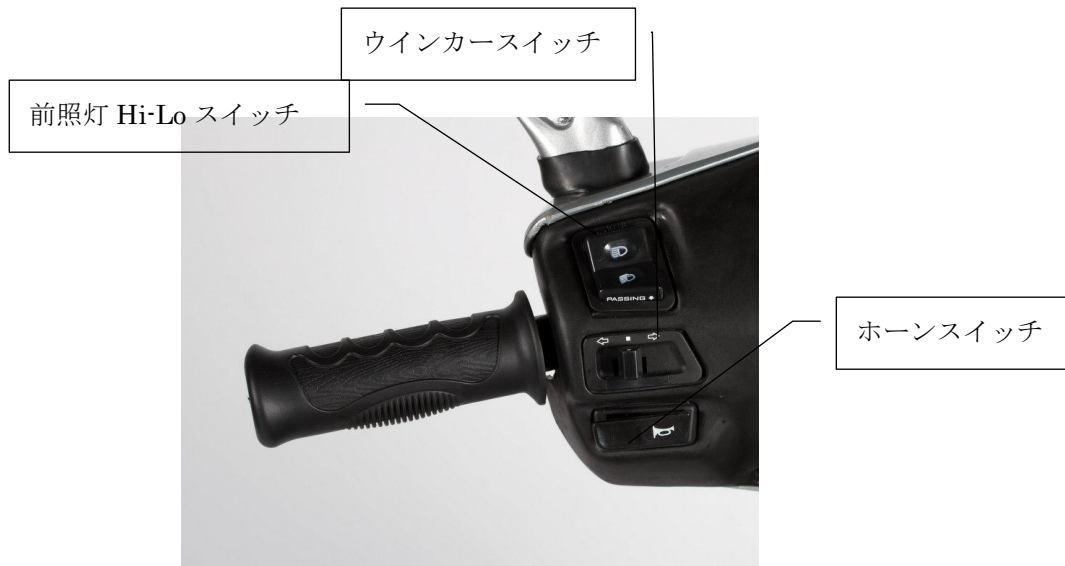


● スロットルグリップ

- ・ 静かに手前に回すとスタートします。
- ・ グリップの回し加減で速度を調節します。
グリップを戻すと、速度が遅くなります。
- ・ 急激なスロットルの開閉操作は故障の原因となります。
スタンドをかけた状態で、スロットルを回さないでください。

● 前照灯切り替えスイッチ

- ・ 左に動かすと Hi&Low 切り替えスイッチを操作した時、Hi&Low の切り替えが可能になります。
- ・ 右、中央に動かすと Hi&Low 切り替えスイッチを操作しても、Hi&Low の切り替えはできません。



● ウインカースイッチ

- ・ 進行方向を変える時、右左折時などウインカーランプを点滅させます。運転者の進みたい方向を表示させます。
- ・ 操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
- ・ 真中を強く押すと解除されます。

⇒ 右側のウインカーが点滅します。

⇐ 左側のウインカーが点滅します。

● ホーンスイッチ

- ・ 自分のまわりに、存在を知らせます。
- ・ ホーン スイッチを押すと鳴ります。放すと止まります。

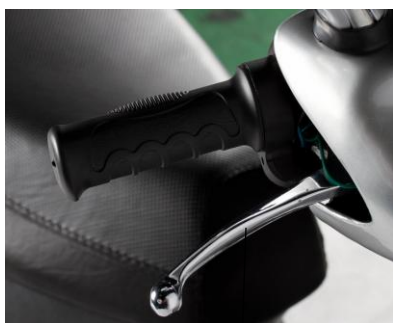
● 前照灯 Hi-Lo スイッチ

- ・ ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。
- ・ (上向き) : 遠くを照らします。
- ・ (下向き) : 近くを照らします。

注意！！

先行者や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き D にしてください。

● ブレーキ



後ブレーキレバー



前ブレーキレバー

- ・ スロットルグリップを戻してから、ブレーキレバーを握りますと停止します。
- ・ 制動力を効果的に得るためには、前後ブレーキを同時に使用すると効果的です
- ・ “はじめやんわり、あときつく” がブレーキの上手なかけかたです。
- ・ 電流の過負荷防止の為に、ブレーキレバーを握ったままでは、スロットルグリップを回しても、電動モーターは回りませんので発進は出来ません。

● シート



シート



トランク

メインスイッチキーで開閉出来ます

- シートの下にトランクがあります。
トランクへの最大荷物重さ：約7Kgです。
- トランクはメインスイッチキーでシートのロックを解除して開けます。
- シートを閉めた後、完全にロックが掛かったか確かめてください。
ロックしないで走行すると、走行に支障をきたすことがあります。
- トランクには充電器とヘルメットが収納できます。
ヘルメットの形状によって収納できないことも有ります。
- ブレーカー
故障などで電流が過負荷の時、自動で電源を遮断します。この時には手動で元に戻して下さい

い。長い上り坂ではブレーカーが落ちる場合があります。ブレーカーが元の状態に戻らない時には、テラモーターズ取扱店までご連絡下さい。

* メインスイッチキーをトランク内に置き忘れた状態で座席を下げるとロックされ取り出すことが出来なくなりますのでご注意ください。

● リアキャリア

リアキャリアに荷物を積むときは、ひもなどでしっかり固定してください。リアキャリアに積める荷物は 3kg までです。

【バッテリーの充電】

● 充電するときは

警告！！

- ・ 充電するときは、キーを抜いてください。
- ・ 充電器は幼児やペットがいたずらするところに放置しないでください。
- ・ 電源プラグや充電プラグを濡れた手で扱わないでください。
感電する恐れがあります。
- ・ 充電器を接続したままの状態では車体を動かさないでください。転倒してけがをしたり、機器を損傷する恐れがあります。
- ・ 充電器は SEED 専用品です。接続プラグの計上が一致しても、他の電気製品などには絶対に使用しないでください。破損や火災の原因になります。
- ・ 充電中の充電器に、長時間皮膚の同じ場所で触れないでください。充電器は充電中に発熱し、高温になる場合があります。充電中の充電器に長時間皮膚の同じ場所でふれていると、低温やけどの恐れがあります。
- ・ 充電器を水没させたり、雨中に放置しないでください。故障の原因になります。
- ・ 充電するときは SEED 専用の充電器を使用してください。バッテリーなどが損傷する恐れがありますので、専用の充電器以外は絶対に使わないでください。
- ・ 充電コードの取り扱いには充分注意してください。充電器が屋内に、車両が屋外にある場合、ドアやサッシで充電コードを挟み込むとコードを傷つける

おそれがあります。また、コードを引っ張ってプラグを抜かないでください。
コードを傷つけるおそれがあります。

- ・充電器を落としたり、強い衝撃を与えないでください。充電ができなくなったり、破損する恐れがあります。
- ・充電器にカバーをしたり、上に物を置かないでください。また、複数の充電器を重ねたり密着させて使用しないでください。
- ・バッテリーの底部の接点や充電プラグ、充電コネクターにごみ、土、油、水などが付着しないよう注意してください。充電ができなくなったり、破損するおそれがあります。バッテリー底部の接点や充電プラグ、充電コネクターはいつもきれいにしておいてください。

●バッテリー取り扱いの注意

- ・バッテリーの保管、及び使用は周囲温度が -10°C 以下、又は 40°C 以上では行わないで下さい。
- ・バッテリーは、密閉式のメンテナンスフリーバッテリーを使用していますので液の補充等は必要ありません。むやみに上蓋を開けないようにして下さい。
- ・バッテリーは、メインスイッチが「OFF」の状態でも、多少の自己放電をしていますので、使用しない場合でも1ヶ月に1～2回充電し常にフル充電にして置いてください。充電はブレーカーをONの状態で行って下さい。ブレーカーがOFFの状態では充電されません。
外気温が低い場合、走行距離が短くなったり（20%程度減少）、速度が出ない場合があります。また、坂道を多く走行したり、重いものを載せたり、体重の重い方が乗られたりした場合も、走行距離が短くなります。
- ・バッテリーの交換、修理、メンテナンス等が必要な場合は、テラモーターズ取扱店に相談してください。

●充電する場所

充電時間は充電環境に左右されます。また、充電環境が悪いと充電器やバッテリーの故障の原因となります。下記の諸条件を満たす場所を選んで充電してください。

- ・平坦で安定がよいところ。

- ・雨や水にぬれないところ。
- ・直射日光の当たらないところ。
- ・風通しがよく、湿気の無いところ。
- ・幼児やペットなどがいたずらをしないところ。
- ・充電中の周囲の温度が-10℃～40℃の範囲内の場所

●充電のしかた

注意！！

バッテリーは車体に取り付けたままでしか、充電ができません。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 充電器の充電プラグを、シート下についている差込み口にしっかり奥まで差しこみます。
3. もう片方のプラグを家庭用の AC100V コンセントに差し込んでください。

注意！！

充電器は必ず、車体の差込口に先に差し込んだ後に、AC100V コンセントに差し込んでください。手順を逆にした場合、故障につながる恐れがあります。

4. 充電器の電源プラグをコンセントから抜きます。
5. 充電器の充電プラグを差し込み口から抜きます。
6. 充電器コードは充電器本体に巻き、保管します。

注意！！

- ・使用後は安全のため、コンセントから電源プラグを抜いて保管してください。
- ・充電終了後は、屋外へ放置しないでください。

- 充電時間は、バッテリーの状況、また気温等の環境により異なりますが、約 2～3 間です。
- バッテリーが新しい時は、充電時間は約 8 時間掛かります。
- 充電器の電源が入ると赤いランプが点灯します。
- 充電中は赤いランプが点滅します。
- 充電が完了すると青いランプが点灯します。
- 充電が完了すると、充電機能は自動的に停止します。
- 電源プラグを抜く時は、コードをもたず電源プラグの先端をもってぬいて下さい。又プラグの抜く順序は AC100V の方を抜いてから本体側プラグを抜いて下さい。
- バッテリーは電源スイッチ「OFF」の状態でも、多少の自己放電していますので、1 ヶ月に 1～2 回充電し常に満充電にして置いてください。
- ブレーカーを落とした状態では充電されませんので、ブレーカーが

上がっていることを確認の上、充電してください

- 充電器をシートの中に入れてままの走行はお止めください。故障の原因となります。

● 充電器



電源「入り」と充電状態はランプで知らせます。



充電中「赤」が点灯し、充電後「青」点灯します。

電源「入り」により点灯

※赤の点灯から青の点灯に切り替わって満充電となります。走行距離が出ないと感じられた時は、充電器が青の点灯になるまで充電をしてください。

※充電器を差し込んでからランプが点灯するまで少し時間がかかる場合がございます。故障ではありませんので点灯するまでお待ちください。

【正しい運転の仕方】

発進の準備

- 1、 左手で後輪ブレーキレバーを握り、右手でリアキャリアを持ちます。
- 2、 車を前に推してメインスタンドを戻します。

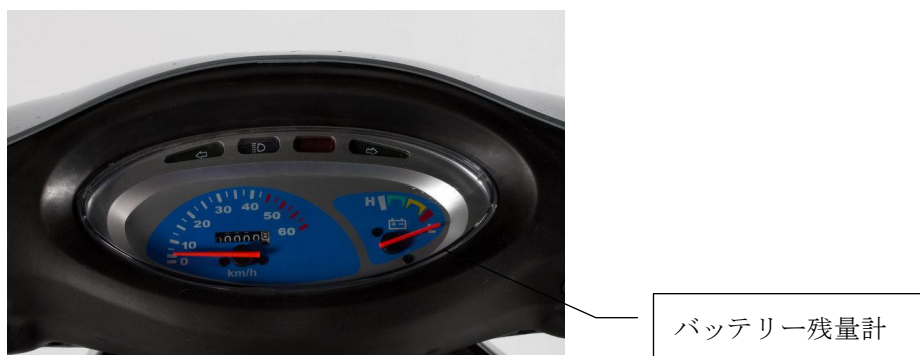
警告！！

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、必ず左手で「左側のハンドルグリップ」を持ち、右手で「スタンディングハンドル」を持ってください。右側のスロットルグリップを握って押し出さないでください。転倒や誤発信のおそれがあり危険です。

- 3、 車に乗ります。
- 4、 車が動き出さないように左手で後輪ブレーキレバーをしっかり握ります。
- 5、 バックミラーで後方を確認できるように調整します。



- 6、 周囲の安全を確認します。
- 7、 メインスイッチを ON にします。
- 8、 バッテリー残量計で残量確認し、不足時は充電後使用してください。



走り方

- 1、 ウィンカースイッチを右側に入れ、発進の合図をします。
- 2、 前後、左右の安全を確認します。
- 3、 後輪ブレーキレバーをはなします。
ブレーキレバーを少しでも引くと発進しない（送電しない）ので、発

進時には完全にブレーキを使っていない状態で発進してください。

- 4、 スロットルグリップをゆっくり手前に回して発進します。

警告！！

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

シートが長くなっておりませんが、決して二人乗りはしないでください。

ポイント

発進後はウインカーを速やかに消灯してください。

●スピードの調整

スピードの調整はスロットルグリップを回しておこないます。

戻す：スピードが遅くなります。

手前に回す：スピードが速くなります。

●ブレーキの使い方

- ・ブレーキレバーを少しでも引いた状態だと送電しない（加速しない、始動しない）のでご注意ください。
- ・スロットルグリップを戻し、前輪ブレーキレバーと後輪ブレーキレバーを同時に握り、ブレーキをかけます。
- ・ブレーキは徐々に、絞り込むようにかけるのが上手なかけかたです。余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- ・不要な急ブレーキはかけないでください。急ブレーキをかけると横滑りや転倒の原因となるときがあります。また、タイヤをロックさせ車体の安全性を損なう恐れがあります。

注意！！

- ・カーブ走行の時は、スピードの出し過ぎに十分注意して下さい。
- ・雨の日や路面が濡れているところでは、晴天時よりブレーキ停止距離が長くなります。速度を落として走り、早めにブレーキを掛けるなど余裕を持って操作して下さい。
- ・下り坂では、スロットルグリップを戻して、速度に応じてブレーキを掛けながらゆっくり走ってください。
- ・連続的なブレーキ操作を避けて下さい。ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなる恐れがありますので避けて下さい。
- ・水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなる事があります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認して下さい。もし効き具合が悪い時はブレーキを軽く作動させながら、しばらく低速で走行しブレーキを乾かして下さい。



前車輪です、静かにブレーキを掛けて濡れた状態を乾かしてください
後輪も同じです

- ・ 雪道や凍った道路は滑りやすので十分に気を付けて、走行しましょう。

●止まり方

- 1、 止まる地点が近づいたら早めに方向指示器スイッチで合図し、後方や側方の安全を確認し、徐々に左によります。

ポイント

スロットルグリップを戻して、早めに左右のブレーキレバーを引きブレーキを掛けましょう。

制動灯（ストップランプ）が点灯し、後車への合図になります。



ストップランプ

- 2、 スロットルグリップを戻します。
- 3、 徐々に前輪、後輪のブレーキをかけます。不要な急ブレーキはかけないでください。
- 4、 車が止まったら左足を地面につけて、車を支えます。
- 5、 ウィンカーのスイッチを押して、ウィンカーを消します。
- 6、 メインスイッチを OFF にします。
- 7、 車の左側におります。
- 8、 左手でハンドルを、右手でスタンディングハンドルを持ちます。
- 9、 車を垂直にし、右足でメインスタンドを降ろします。このとき、メインスタンドの足が左右とも地面についていることを確認します。

10、右足でメインスタンドを強く踏み込みながら、右手でリアキャリアを引き上げます。

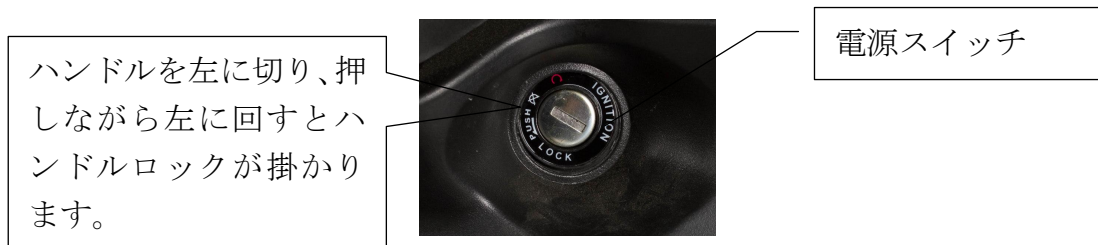
左手でハンドルを真っ直ぐにし、右手でリアキャリアをしっかりと持ち、右足でスタンドの踏み付け部分を地面方向に強く踏むと比較的楽にセンタースタンドを立てる事が出来ます。



注意！！

- ・ 駐車する場合は周囲に迷惑のかからない場所に移動し、駐車させて下さい。
 - ・ 平坦な場所に駐車してください。
- やむを得ず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは転倒や動きだしの無いようにしてください。

11、 盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックを掛け、メインスイッチキーを抜きます。



ハンドルを左に切り、押しながら左に回すとハンドルロックが掛かります。

【日常点検】

電動バイクは常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。日常点検は、電動バイクを使用する方が1日1回運転する前に実施する点検です。安全快適にお乗りいただくために必ず実施してください。

警告！！

- ・ 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- ・ 異常が認められた時は、使用者ご自身で整備するか、難しいと思われる内容は最

寄りの販売店等までご相談ください。

▼ポイント

確実な点検・整備をおこなうための工具を必要に応じてお買い求めください。

詳しい点検の方法は、次ページ以降の日常点検の方法を参照してください。

点検箇所	点検内容
ハンドル	緩み・ガタはありませんか？
	左右スムーズに動きますか？
スロットルグリップ	正常に作動しますか？
モーター	モーターの回転音に異常はありませんか？
ホーン	ホーンは鳴りますか？
ウインカーランプ	ランプは点灯しますか？警告音は鳴りますか？
リアウインカーランプ	ランプは点滅しますか？
ブレーキレバー	ブレーキは効きますか？
	レバーの遊びは適切ですか？
バックミラー	汚れ・損傷はありませんか？
バッテリー残量計	ランプが点灯しますか？
	(バッテリーの残量は充分ですか？)
ヘッドランプ	ランプ点灯しますか？
	汚れ・損傷はありませんか？
ナンバー用ランプ	ランプ点灯しますか？
シート	座席は正常ですか？
	緩み、ガタつきありませんか？
タイヤ	亀裂・損傷はありませんか？
	タイヤの溝の深さは適切ですか？
	金属片・石等の異物がささっていませんか？
	空気圧が適正ですか？ (2.0~2.2Kgf/cm ²)

警告！！

安全のため、ご自身で実施する場合は、ご自身の知識、技量に合わせた範囲で点検・整備を行ってください。

難しいと思われる内容は、最寄りの販売店等までご相談ください。

点検・整備を行うときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- ・点検は平坦で足場のしっかりした場所を選んで行ってください。
- ・走行して点検するときは、交通状況に注意してください。

● 日常点検の方法

▼ ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

- ・ ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバーの先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

遊びは6 mm～8 mm



前輪ブレーキ ディスク



後輪ブレーキ アジャスタ

- アジャスタの凹部は、半回転ごとにピンの凸部に一致します。

調節後は一致していることを確認して下さい。

警告！！

必ず左右（前輪・後輪）とも行ってください。

- ・ ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪い時は、販売店等で点検・整備を受けてください。

警告！！

走行しながら点検するときは、交通状況に注意し、低速度で行ってください。

▼ タイヤの空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。

たわみ状態が異常な時は、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧（2.0～2.2 Kgf/cm²）にしてください。

▼ タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。

▼タイヤの溝の深さ、タイヤの異常な摩耗

タイヤの溝の深さをデプスゲージ等で測ります。規定値（5mm）

以下の場合には交換して下さい。

測定は販売店等に相談してください。



タイヤサイズ
3.00-10



タイヤの摩耗
状態を表示

● タイヤの空気圧 2.0～2.2 Kgf/cm²

警告！！

- ・異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響がありますので使用しないでください。
- ・過度にすり減ったタイヤの使用や不適切な空気圧による走行は、転倒事故などを起こす原因となります。
- ・タイヤに異常があると、操縦安定性に影響を及ぼしたり、パンクの原因となります。点検・整備が必要です。

▼モーターの作動、異音の点検

電源をオンにしたとき、モーターから異音がないかを点検します。

▼低速、加速の状態の点検

スロットルグリップを徐々に廻して加速した時、スロットルグリップもモーターもスムーズに回るかを走行するなどして点検します。異常を感じたら、最寄りの販売店等にご相談ください。

▼バッテリー充電量の点検

電源をオンにした時、バッテリー充電量が走行可能な範囲内であるか確認してください。

▼バッテリーメーターの点検

メインスイッチをオンの位置に回したとき、バッテリーメーターの針が作動するかを確認してください。

▼灯火装置の点検

メインスイッチをオンにします。

- ・ヘッドライト・ポジションランプ・テールランプ・ナンバープレートランプが点灯するかを点検します。同時にヘッドライト上下切り替えスイッチを操作し、上向き/下向きに切り替わるかを点検します。
- ・前輪ブレーキレバー、後輪ブレーキレバーを別々に握り、ブレーキランプが点灯するかを点検します。
- ・方向指示器スイッチを操作し、前後左右の方向指示灯が正常に点滅するかを点検します。

▼通行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

【定期点検】

●定期点検整備の実施

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務付けられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6カ月点検と12カ月点検の2種類があります。

警告！！

- ・定期点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- ・異常が認められた時は、ご使用の方ご自身または販売店等で必ず整備を行ってください。

▼定期点検整備の方法

定期点検項目は次のページの表を参考に行ってください。

ご自身で出来ない整備につきましては販売店等までご相談ください。

警告！！

安全のため、ご自身で実施する場合は、ご自身の知識、技量にあわせた範囲で点検・整備を行い、点検するときは下記の内容を守ってください。

- ・点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて

いってください。

- ・停止直後の点検はモーターが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- ・走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- ・異常が認められた時は、ご使用のかたご自身は販売店等で必ず整備を行ってください。

▼バッテリーの点検

バッテリーボックスに破損や損傷がないかを点検します。

バッテリーに異常があるときは、販売店等で点検・整備を受けてください。

▼ブレーキシューの摩耗点検

ブレーキバーをいっぱい握ったとき、インジケーターが使用範囲から外れるとブレーキシューの使用限度です。販売店等で交換・整備を受けてください。

定期点検記録簿

N0-1

安全の為、購入後6ヶ月12ヶ月毎にテラモーターズ取扱店で点検（有料）を受けてください。

OK：異常なし A：調節 △：修理 X：交換 T：締付 C：清掃 L：給油

定期点検		6ヶ月	12ヶ月	
操作ボックス	アセルバーの作動、戻り具合			
	スイッチの作動具合			
	コネクター接続部の緩み、損傷			
メインコントローラ	コネクター接続部の緩み、損傷			
バッテリー	ターミナルの締め付け・腐蝕			
	コネクター接続部のガタ・損傷			
	充電機能			
充電器	コネクター接続部のガタ・損傷			
	ランプの点灯			
	コードの損傷			
	ファンの回転・異音			
ブレーキ	手動ブレーキレバーとストッパーのすき間			
	手動ブレーキレバーの遊び			
	ブレーキランプの点灯			
	手動ブレーキのきき具合			
	ブレーキケーブルの緩み・損傷			
	ブレーキシュー摺動部・ライニングの摩耗			
	ブレーキドラムの摩耗・損傷			
ハンドル	ハンドルの操作具合・緩みガタ			
	左右の操舵角度			
	ステアリングシャフトの取り付け具合損傷			
	ステアリングシャフトの軸受部のガ			

	タ、ストップの損傷、サビ			
シート	シートの汚れ及び損傷			
	取り付け部の損傷			
	スットパーの変形・摩耗			
	センサーの緩み・ガタ			
タイヤ	タイヤの亀裂・損傷			
	タイヤの溝深さ・異常摩耗			
	空気バルブの損傷			
	空気圧の適正			
ホイール サスペンシ ョン	ボルト・ナット類の緩み			
	ホイールの損傷			
	ボルト・ナット類の緩み			
	サスユニットの損傷			
	サスペンションの作動具合			

【メンテナンス】

点検をして車に異常がみとめられたときには、調整、清掃、交換などの整備が必要となります。ここでは、通常行われることが多い簡単な整備方法を説明しています。

警告！！

安全のため、ご自身の知識、技量に合わせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容は最寄りの販売店等にご相談ください。点検・整備するときは安全に十分に注意し、下記の内容を守ってください。

- ・点検・整備は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- ・停止直後の点検は、モーターが熱くなっています。
- ・走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。

▼ポイント

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。

●ブレーキの遊びの調整

前、後輪ブレーキレバー先端部の遊びが6～8mmになるようにアジャスターで調整します。

●バックミラー

- ・バックミラーの着脱の仕方

【お車の手入れ】

車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

隅々まで掃除すれば、普段気付かない異常個所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

●洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- ・やわらかいタオルを水で濡らしかたく絞った後、丁寧に拭いてください。
- ・汚れを落とした後、車両の塗装面を保護するため、ワックスがけをしてください。

注意！！

- ・カラ拭きをするとキズの原因になりますのでご注意ください。
- ・コンパウンドの入ったワックスは車両を傷つけますので、使用しないでください。
- ・ワックスを使用するときは、ボディの目立たないところで試してからご使用ください。

警告！！

- ・電気系統などに水がかかったり、入らないように注意してください。故障の原因になります。
- ・電装部品に水をかけないように注意してください。故障の原因となります。
- ・スチーム洗車や水道ホースなどで車両に直接水圧をかける洗車は絶対にしないでください。
- ・シートしたトランク内部やヒューズホルダー内部に水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- ・ブレーキドラムに直接水をかけないでください。ドラム内に水が入ると、ブレーキの制動力が低下し、一時的にブレーキがきかなくなることがあります。特に寒冷地では充分注意してください。

●保管の仕方

▼保管場所

保管場所は慎重に選びましょう。

- ・平坦で安定の良いところ。
- ・風通しがよく、湿気の無いところ。
- ・雨つゆや直接日光が当たらないところ。
- ・車は出来るだけ敷地内に保管してください。

▼保管方法

- ・盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時にしようすることをおすすめします。
- ・野外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはモーターが冷えてからかけてください。

▼長期保管するときは

- ・バッテリーは室内の平坦で、涼しいところや湿気の無い場所に保管してください。
- ・保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
- ・バッテリーは電源スイッチが「OFF」の状態でも、自己放電しています、
一ヶ月に 1~2 回充電して満充電の状態にして下さい。

▼長期間保管して再使用するときは

- ・長期間（一カ月以上）保管して再び使用する場合は、必ず満充電にしてから使用してください。
- ・走行前に、各部の点検をしてください。

【トラブルシューティング】

症状	考えられる原因	解決の仕方
充電器でまったく充電できない。	・充電器の接続コード、もしくはプラグが外れている。	取扱説明書に従って確実に接続してください。
	充電器のヒューズが切れている。	取扱説明書に従ってヒューズを交換してください。
	充電器が故障している。	充電器の修理が必要です。
	車両の電気系統に異常がある。	電気コード、コネクタ、回路などの修理が必要です。
指定の充電器で12時間以上充電しているのに、充電完了を示すランプが点灯しない。	電圧が極端に低い。	新車の初回充電時や、長期間、使用がなかったあとでは充電に時間がかかります。一度、満充電にしてください。
	バッテリーの性能が低下している。	バッテリーを交換する必要があります。バッテリー寿命は、走行状況により異なります。
	充電方法が間違っている。	取扱説明書に従って充電してください。
	充電器の設定が合っていない。	充電器の取扱説明書にしたがって設定してください。
メインスイッチ(キースイッチ)をONにしても、車両が動かない。	ブレーカースイッチがOFFになっている。	トランク内のブレーカースイッチをONにしてください。
	メインヒューズが切れている。	メインヒューズの交換が必要です。
	車両の電気系統系に異常がある。	電気コード、コネクタ、回路など修理が必要です。

メインスイッチ(キースイッチ)をONにした時、ランプとホーンは作動するが、モーターが回らない。	ブレーキレバーが戻っていない。	ブレーキレバーが戻っていない状態では、モーターへの電力供給が遮断される仕組みになっています。ブレーキレバーを完全に戻してください。
	車両の動力系統、電気系統が故障している。(モーター、スロットル、回路など)	修理が必要です。
メインスイッチ(キースイッチ)をONにした時、モーターは回るが、ランプとホーンが作動しない。	電圧変換機のヒューズが切れている。	電圧変換器のヒューズを交換してください。
	電圧変換機が故障している。	修理が必要です。
スピードが出ない。	指定以外の充電器で充電をおこなった。	当社指定の充電器で充電を行ってください。正常な性能が得られないだけでなく、故障の原因となります。
	バッテリーの充電残量が少なくなり、スピードが低下した。	充電器側の充電完了を示すランプが点灯するまで、しっかりと充電を行ってください。
	走行時の負荷が大きい。	速度は走行状況により異なります。(積載重量が多い、逆風、上り坂であるなど)
	バッテリーも寿命である。	バッテリーを交換する必要があります。バッテリー寿命は走行状況により異なります。
走行できる距離が短い。	指定以外の充電器で充電をおこなった。	当社指定の充電器で充電を行ってください。正常な性能が得られないだけでなく、故障の原因となります。

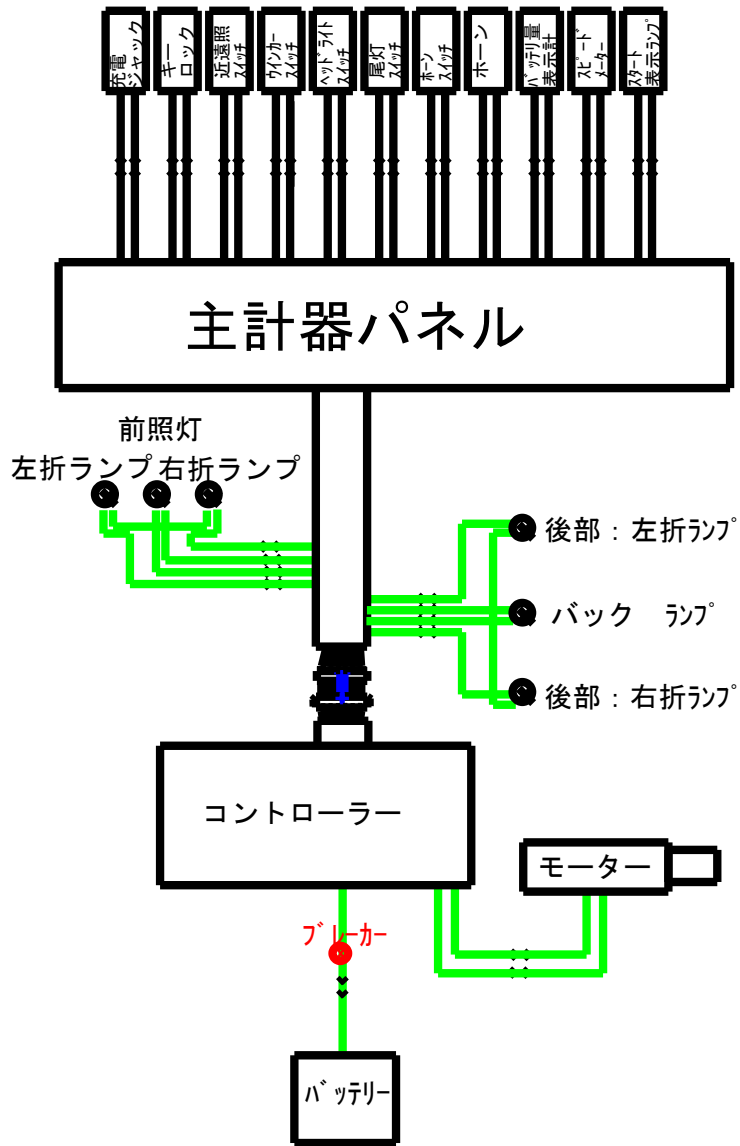
	充電が十分でない。	充電器側の充電完了を示すランプが点灯するまでしっかりと充電を行ってください。
	充電器の故障やヒューズの切れなど、充電器側の異常により、充電が十分でない。	充電器の取扱説明書にしたがって、充電器を正常な状態にしてください。
	外気の温度が低い。	バッテリーに最適な気温は、 -10°C ～ 40°C の範囲です。寒冷時では、走行距離が短くなる場合がありますが、これはバッテリーの特性によるものであり、異常ではありません。
	走行状況の負荷が大きい。	走行距離は、走行状況により異なります。(積載重量が多い、逆風、上り坂であるなど)
	タイヤの空気圧が足りない。	タイヤの空気圧が足りないと、走行距離が短くなります。規定の空気圧になるよう調整してください。
	バッテリーの寿命である。	バッテリーを交換する必要があります。バッテリー寿命は、走行状況により、異なります。
	バッテリーが故障している。	バッテリーを交換する必要があります。
スロットルでスピード調節がうまくいかない。 (スピードにムラがある、途中でブレーキがかかったような状態になるなど)	バッテリー充電量が少なくなり、バッテリー電圧が足りない。	バッテリー電圧が一定値以下になると、バッテリーを保護するためにモーターへの電力供給量が遮断される設計になっています。バッテリーの充電残量が少ない状態で急加速のすとお

		<p>とる操作をすると、バッテリー電圧が一時的に一定値以下となり、スピードにムラがでたり、途中でブレーキがかかったような状態に感じることがあります。バッテリーの充電残量が少ない場合は、すみやかに充電を行ってください。</p>
	<p>スロットルに異常がある。(スロットルのバネが戻らない。スロットルが緩すぎたり、硬すぎたりする、もしくは、コネクターが外れている。</p>	<p>修理が必要です。</p>
ブレーキのききが悪い。	<p>深い水たまりなどを走行し、ブレーキドラム内に水が入った。</p>	<p>ブレーキの湿りを乾かしてください。</p>
	<p>ブレーキアジャスターによる調整が行われていない。</p>	<p>ブレーキの効き具合をブレーキアジャスターで調整してください。</p>
	<p>ブレーキシューの寿命である。</p>	<p>ブレーキシューを交換してください。</p>
走行中に停止した。	<p>バッテリーメーターが「charge」ゾーンから「low」ゾーンを示している。</p>	<p>充電してください。</p>
	<p>走行中の電圧に異常が発生し、ブレーカースイッチがOFFになった。</p>	<p>トランク内のブレーカースイッチをONにしてください。</p>
	<p>車両の電圧に異常が発生し、メインヒューズが切れた。</p>	<p>メインヒューズを交換してください。</p>

主要諸元表		
諸元	製品名	シード48
	形式	TE
	長さ	1800 mm
	幅	660 mm
	高さ	1050mm
	本体重量	86Kg
	乗車定員	1人
	モーター	600W × 1ヶ
	バッテリー	12V 20A × 4ヶ
	充電器	AC-110V
	前輪	3.00-10
	後輪	3.00-10
	駆動方式	後輪ダイレクト駆動方式
	制動方式	前輪：ドラム
		後輪：ドラム
性能	連続走行距離	約 45Km (30Km 定地走行テスト時)

この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや写真及び内容などが一部実車と異なる場合があります。

電気系統図



保証書

1. 保証の内容

お買い上げいただいた弊社製造の車両を構成する各部品に、材料又は構造上の不具合が起きた場合、この保証書に示す、期間と条件に従って、これを無償修理いたします。(以下この無料修理を保証修理といいます。)
保証修理は部品の交換あるいは補修により行います。なお取り外した部品等は弊社の所有となります。

2. 保証期間

保証期間 お買い上げ日より 1 年以内。
かつ、走行距離が 5,000Km 以内の場合。
バッテリーに関しては、お買い上げ日より 6 ヶ月以内。

保証対象部品 車両を構成する全部品、ただし下記を除く

- ・ 消耗部品
- ・ 別扱い保証の部品

下記の消耗品の交換は、実費を頂きます。
ブレーキシュー・ランプ・バルブ類・ヒューズ
モーター類のブラシ・ワイパーブレード・パッキン類
・ ゴム類などこれに類するもの。

3. 別扱い保証

次に示す部品は、この保証書とは別にそれぞれの部品メーカーが定めた保証基準に従って保証されます。お買い上げいただいたテラモーターズ取扱店にご相談下さい。

- ① タイヤ・チューブ ② アクセサリー用品等

4. 保証できない事項

1 次に示す事項は保証修理致しません。

- ① 保守、整備の不備又は間違いに起因する不具合
- ② 取扱説明書に示す取扱い方法と異なる使用及び弊社が示す使用の限度（最大積重量・乗車定員・その他）を超える使用に起因する不具合
- ③ 法令に違反する改造及び弊社が認めていない改造（車高の変更・灯火器の減、増設・バッテリー容量の変更など）に起因する不具合

- ④レース・ラリー等による酷使あるいは一般に車が走行しない場所での走行に起因する不具合
- ⑤純正部品及び指定する油脂類以外の使用に起因する不具合
- ⑥時の経過で発生する不具合（塗装面などの自然退色・メッキ面などのサビ・その他）
- ⑦機能上影響の無い感覚的な現象（音・振動・オイルのにじみなど）
- ⑧地震・台風・水害などの天災、事故及び火災に起因する不具合
- ⑨煤煙・薬品・鳥糞・塩害などに起因する不具合
- ⑩後記5の『お客様にお守りいただく事項』を守らなかったことに起因する不具合

2 次に示す費用は負担いたしません

- ①法令に定められた継続検査に伴う点検整備の費用
- ②点検・清掃及び法令で定められた定期点検整備の費用
- ③テラモーターズ取扱店以外での修理費用
- ④使用により消耗した部品
- ⑤お車を使用できなかった事による不便さ及び損失など（電話代・レンタカー代・休業補償・商業損失など）
- ⑥この保証書に示す以外の費用・補償など

5. お客様にお守りいただく事項

お車を安全快適にご使用いただくためには、お客様の正しい使用と点検、整備が必要です。 次のことを必ず守ってください。
守られていない場合には、保証修理をお断りすることがありますので、ご承知下さい。

- ①取扱説明書に示す取扱い方法に従って使用すること
- ②日常点検を実施すること
- ③法令及び弊社の指定する点検整備を実施すること
- ④定期交換部品等を指定どおりに交換すること

6. 保証修理の受け方

保証修理をお受けになる場合は、お車とこの保証書を、お買い上げのテラモーターズ取扱店へお持ち下さい。
これにより保証修理を致します。提示されない場合は、保証修理いたしかねます。

7. 保証の適用

この保証書は、日本国内で販売し使用される車両にのみ適用いたします。従って海外へ持ち出す場合は、

その時点で保証が打ち切りとなります。

この保証書は、本書に示した期間と条件のもとに無償修理をお約束するものです。従って保証期間経過後に発生した不具合については、この保証書に基づく保証修理の適用はありません。

保証について

保証修理

材料上あるいは製造上の不具合が発生した場合には、無償で修理させていただきます。期間は、お買い上げ日より1年以内かつ、走行距離5.000Km以内の場合。バッテリーに関しては、お買い上げ日より6ヶ月以内。

保障期間中に発生した修理等で掛かる工賃等についてテラモーターズ取扱店で行う場合は無償となりますが、他店で行った場合の工賃等は保証出来ませんのでご了承下さい。

尚、保障期間中の無償修理の場合でも、車両の送料、又は出張費用等、お客様のご負担となる場合が有ります。

下記の消耗品の交換は実費を頂きます。

ブレーキパッド ブレーキシュー ランプバルブ類 ヒューズ
モーター類のブラシ
ワイパーブレード・パッキン類 ゴム類 などこれに類するもの

保証修理の受け方

- 1 保証修理をお受けになるときは必ず保証書をご提示下さい。
提示がない場合は保証修理を致しかねます。
- 2 お買い上げのテラモーターズ取扱店に保証修理をお申し付け下さい。
ただし、お申し付けになる前に保証書の内容（特に保証できない事項）を良くお読み下さい。

